

# 成瀬ダム建設ありきの「成瀬ダム検証・複数の治水／利水対策案」を批判する

～成瀬ダム検証・パブリックコメント募集へ切にあたって～

成瀬ダムをストップさせる会

- (1) 「第3回 成瀬ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」で提示された複数の治水・利水対策案は、いずれもが「成瀬ダム建設事業費」を上回るものとなっており（残事業費との比較というカラクリもあるが）、検証結果は明らかに成瀬ダム建設継続の結論が見えているものとなっている。私たちや水源開発問題全国連絡会（水源連）が国交省や「今後の治水のあり方を考える有識者会議」（以下、「有識者会議」）に意見提出したとおり、検証主体が事業主体の東北地方整備局であることの限界を露呈したものである。改めて、ダムの検証を専門家、批判者を含めた第三者機関によってやり直すことを強く求めるものである。
- (2) 「有識者会議」の中間とりまとめ（2010年9月27日）では、「我が国は、現在、人口減少、少子高齢化、莫大な財政赤字という、三つの大きな不安要因に直面しており、このような我が国の現状を踏まえれば、税金の使い道を大きく変えていかなければならないという認識のもと、『できるだけダムにたよらない治水』への政策転換を進める」としていた。今回、東北整備局から発表された検証結果や対策案は、過大な洪水流量が設定された「雄物川水系河川整備計画素案」相当案や、東北農政局・関係自治体からの利水容量などの数値をそのまま引用・鵜呑みしたのものにもとづくものであり、先の不安要因を十分考慮したとは思われず、住民の期待を大きく裏切るものである。
- (3) 東北整備局は、東日本大震災の復旧・復興を中心になって担わなければならない立場にある。財政的に極めて厳しいなか、対策案の具体的な事業費の明細や内訳も示されない一方、誰が考えても無理と思われる長距離の放水路（治水対策案）や導水路（利水対策案）などがまことしやかに提示されているが、これらの恣意的とも思える感覚は不信の念を抱かせるとともに、対策案全体の科学性、信頼性をも疑わせるものである。
- (4) 成瀬ダムの検証といいながら、成瀬ダムの本当の治水効果について検証されていない。成瀬ダムの治水効果についての私たちの疑問を改めて数字を示して問いたい。「既設の玉川、鎧畑、皆瀬の3ダムの集水面積合計は779.3km<sup>2</sup>であり、その調節効果は300m<sup>3</sup>/sとされている。一方、成瀬ダムの集水面積は68.1km<sup>2</sup>であり、上記3ダムの8.7%程にとどまるが、調節効果は130m<sup>3</sup>/sとされていて理解不能である。そもそも、成瀬ダムの集水面積68.1km<sup>2</sup>は、雄物川水系の流域面積4,710km<sup>2</sup>のわずか1.4%にすぎない。」（「有識者会議」へ提出した、当会の治水対策の意見（要旨説明文）から引用）
- (5) 成瀬ダム建設現地は岩手・宮城内陸地震や今回の東日本大震災の影響を受けたと思われる、亀裂や地滑り・崩落がダム湛水域やその周辺で多数発生している。私たちは、大震災後、県民の安全安心を求める立場から存在が懸念されている「成瀬川断層」の調査や耐震設計の再検討を求めたが、そうした検討は行われなかったようである。今回同時に発表された「事業等の点検について」では、当初予定されていた原石山の予定地が変更となっているが、新原石山（赤滝地区）は地すべり地帯とされているところであり、十分な検証が行われたのか疑問である。改めて徹底的な調査を求めるものである。